

この街 あの人 この人

卓球のインターハイで団体優勝

木村香純さん (ちはら台西出身)



きっかけは地元いちはらのクラブ

「タン、タン、タン、タン」館内に小気味のいい打球音が響きます。市内の施設で卓球の活動をしている「トトロクラブ」は、今から16年前に活動をスタート。現在、子どもから大人まで約40人が、毎日練習に励んでいます。

今年、卓球のインターハイで5連覇を果たした大阪府の四天王寺高校の3年生で、キャプテンを務めている木村香純

さんは、このクラブの出身。「父と母が卓球の選手だったこともあり、5歳の頃から両親や兄と一緒に、このクラブで卓球を始めました。最初はボールに当てるのも難しかったのですが、少しずつ慣れてきて、出場した初めての試合で勝って、すごく喜んだことを今でもはっきりと覚えています」

全日本女子ジュニアの部で3位に

その後、実力を認められ四天王寺羽曳丘中学校へ入学し、より高いレベルの中で卓球に取り組みます。そして、中学3年生で出場した全日本卓球選手権大会ジュニア女子の部では3位となりました。「入学と同時に大阪での寮生活となり、環境も変わって大変でしたが、上手な選手とたくさん練習できて楽しかったですね」

チームが一丸となって勝利

四天王寺高校に入学し、1年生のときからさまざまな大会で活躍。3年生でキャプテンに推薦されます。「先輩たちが



同校は、今年の愛媛国体でも団体優勝しました

築き上げた実績を引き継ぐ立場となったので、プレッシャーはありましたが、チームをまとめ上げていくことにやりがいも感じました」

そして、5連覇のかかったインターハイを迎えます。順調に勝ち進みますが、決勝の明德義塾高校(高知県)との試合では、チームメイトが第1試合のシングルスで敗れてしまいます。しかし、2番手の木村さんが苦しみながらも勝利。次のダブルス、シングルス戦へつなぎ、見事団体優勝をおさめました。

「みんなが一丸となって勝ち取った優勝なので、とてもうれしかったです。次は、高校最後の試合となる全日本卓球選手権大会に向けて、全力でがんばります」と目を輝かせます。これからの木村さんの活躍に目が離せません。

文化の風 29

日常から心に潤いを

菊の大輪がずらり

市の歴史的文化遺産である史跡上総国分尼寺跡で、市文化祭菊花展が開催されています。市内の愛好家が丹精込めて育てた色とりどりの菊が会場を彩っています。市菊の会の宮原会長は、「今年は美しく、見応えのある菊がたくさん咲いたので、多くの人に目に来てほしいですね」と話しています。



約500点の菊が並ぶ

日にち 11月16日(木)まで
時間 午前9時～午後4時

問合せ ふるさと文化課 ☎ 9853

防災コーナー 66

11月5日は津波防災の日・世界津波の日

津波防災の日は、津波防災の意識を高めるために創設された記念日です。これを機会に、あらためて家庭や地域で津波防災について再確認しましょう。

本市の津波予報区は「東京湾内湾」

気象庁は、地震が発生すると即座に地震の規模や位置を推定し、津波の高さを予想します。そして、地震が発生してから3分を目標に「大津波警報」、「津波警報」、「津波注意報」を津波予報区単位で発表します。



地震に伴う強い揺れを感じたときに、津波のおそれがある地域や海沿いにいるときは、避難指示を待たずに避難しましょう。

問合せ 危機管理課 ☎ 9823

いちはら 歴史物語

106 いちはら文化財めぐり

国登録有形文化財

小湊鉄道の橋梁

登録された5つの橋梁

橋梁とは、道路や鉄道などを通すために、河川などの上に橋を架け渡した構築物のことをいいます。

小湊鉄道の路線上にある26箇所の橋梁のうち、国登録有形文化財は、上総山田駅から光風台駅の間位置する「第一柴の下橋梁」、「第二柴の下橋梁」、「第一養老川橋梁」と、馬立駅から上総牛久駅の間位置する「第一養老川橋梁」、上総大久保駅から養老溪谷駅の間位置する

「第四養老川橋梁」の5つです。

建設時期は、第四養老川橋梁が昭和3年頃、これ以外の橋梁は開業当初の大正14年頃と見られています。第一・第二養老川橋梁に関しては、大日本帝国陸軍千葉第一鉄道連隊が、架設を演習として行いました。

また、長さは、第一柴の下橋梁が全長19m、第二柴の下橋梁が11mと小規模となりますが、第一養老川橋梁が全長95m、第二養老川橋梁が61m、第四養老川橋梁が78mと大規模なものとなります。

二養老川橋梁までは、緑豊かな田園風景と鮮やかな橋梁のコントラストを楽しむことができ、第四養老川橋梁は、市南部の丘陵地帯に位置することから、山間部の鉄道景観を楽しむことができます。

問合せ ふるさと文化課 ☎ 9853



里山の景観をつくる第二養老川橋梁